

令和元年版

消 防 年 報

第64号

瀬戸市消防本部

はじめに

この年報は、瀬戸市消防本部における消防力の現状と、平成31年4月1日現在における各種統計を、今後の消防行政の効率的な運営と消防力の強化に資するとともに、消防事情を一般に紹介することを目的に収録いたしました。

消防・防災関係機関の皆様はもとより、広くあらゆる方面でご活用いただき、消防行政により一層のご理解とご協力をいただければ幸いに存じます。

令和元年8月

瀬戸市消防本部





一 目 統 計




平成31年4月1日現在

面積・人口等 自然環境	面積	人口	世帯	気象(H30年中) P52
				
	111.40 km ²	129,550 人	55,942 世帯	年平均気温 16.3℃ 年平均湿度 64.8 % 年間降水量 1,560 mm

消 防 予 算 構 成 人 員	消防予算 P1	署所数 P5	職員数 P6	団員数 P7
				
	12億4,516万円 市民一人当たり 9,611円	消防本部 1 消 防 署 1 分 署 2	141 人 (内女性 5 人)	255 人 (内女性 23 人)

消 防 車 両 水 利	ポンプ車等 P5	特殊車両等 P5	救急車 P5	水利 P16
				
	タンク車 3 台 ポンプ車 4 台	はしご車等 14 台	高規格救急車 5 台	消火栓 2,936 基 防火水槽等 540 基 (その他の水利を含む)

災 害 件 数 (H30年中)	火災 P29	主な火災原因 P30	救急 P39	救助 P47
				
	40 件 出火率 3.1 件/万人	たき火 7 件 ストーブ 4 件 放火等 3 件	出動件数 5,703 件 (15.6 件/日) 搬送人員 5,402 人 現場到着時間 6.7 分	出動件数 80 件 救助人員 33 人

予 防 消防関係団体	防火対象物 P17	査察実施率 P19	危険物施設 P22	消防関係団体 P24-27
				危険物安全協会 315 会 員 自衛消防連絡協議会 18 事業所 婦人防火クラブ 10 クラブ 少年消防クラブ 30 クラブ 瀬戸防火防災協会連合会 20 連 区 自警団 5 団 防災会 2 会
	4,522 件	20.6%	製造所 3 件 貯蔵所 214 件 取扱所 105 件	

平成30年実績値

指標	単位	初期値	実績値
出火率	件	3.8	3.1

※ 出火率とは、人口1万人当たりの火災件数をいう。(P27参照)

※ 初期値は、平成18年から平成27年までの平均値。実績値は、平成30年4月1日現在。

指標	単位	初期値	実績値
救命率	%	42.3	40.0

※ 救命率とは、目撃のある突然心肺停止及び除細動が必要な心電図波形(Vf・脈のないVT)である救急患者のうち、1か月後に社会復帰できた割合をいう。(P43参照)

※ 初期値は、平成18年から平成27年までの救命率。実績値は、平成30年中の数値。

指標(年度)	単位	初期値	実績値
消防団員数	人	253	268

※ 初期値は、平成27年度の数値。実績値は、平成31年3月1日現在(4月1日現在255名)。

指標(年度)	単位	初期値	実績値
消防水利の充足率	%	98.6	98.6

※ 初期値は、平成27年度の数値。実績値は、平成31年4月1日現在。(P16参照)

指標	単位	初期値	実績値
住宅火災における 損害額	千円	47,941	109,981

※ 初期値は、平成27年中の数値。実績値は平成30年中の数値。(P34参照)

平成30年度のトピックス



1 救急隊を5隊体制に

救急6号車を増強配備して、同年4月から瀬戸市内の救急隊数を5隊体制としました。

これに伴い、本署の出動隊を2隊から3隊体制に増隊して、消防力の強化を図り、市民の安全・安心を守ります！

2 消防団活動車を配備

日本消防協会から、瀬戸市消防団に消防車両が寄贈されました。

平時は地域防災訓練、救命講習等に活用し、災害時には、即時に対応できる緊急車両として団幹部による現場指揮並びに情報収集、資器材の搬送等の現場活動で運用します。



3 地区防災計画づくりを開始

地域防災力を高めるため長根、山口連区の2連区を地区防災計画策定モデル地区として指定しました。

突然の自然災害等が発生した場合に、効果的な自主防災活動が行えるよう、それぞれの地域の特性に応じた具体的な防災計画づくりを住民主体で取り組みました。

4 瀬戸市消防団観閲式・こども祭りを開催

瀬戸市消防団観閲式・こども祭りを瀬戸市文化センター及び南グラウンドで実施しました。厳粛な式典に続いて、第47回瀬戸市消防操法大会を開催しました。また、例年開催していた「消防団フェア」を「こども祭り」と銘打ち、消防団への理解と関心を高めるとともに、消防団への加入促進を図ることを目的として、より多くのこどもが、見て、ふれて、学べる機会を増やしました。



5 化学車を更新

平成6年から約24年間運用していた化学3号車を、最新の車両に更新しました。

新型車両は緊急消防援助隊設備整備費補助金（国庫補助金）を受けて更新したもので、瀬戸市初の全自動泡薬剤混合装置を搭載し、迅速確実な消火活動を実現した最新鋭の車両です。

6 西日本豪雨災害へ緊急消防援助隊を派遣

平成30年6月28日から7月8日にかけて西日本を中心に発生した豪雨災害では、死者237人、行方不明者8人と平成最悪の水害となりました。

愛知県内の消防本部により緊急消防援助隊が結成され、瀬戸市からは、救急隊及び後方支援隊の2隊6名が第2次隊として岡山県倉敷市真備町へ出動し災害対応に当たりました。



目 次

【第1編】消防情勢（P1～10）

・5年間の市当初予算等と消防費	1
・平成31年度一般会計当初予算額	1
・平成31年度消防費の市民負担額	1
・消防本部・消防署・消防団組織図	2
・消防本部消防課の事務分掌	3
・消防署の事務分掌	4
・消防力の整備指針と現有消防力	5
・消防職員数	6
・消防団員数	7
・消防職員・団員数の推移	7
・消防職員・団員の平均年齢の推移	7
・消防職員派遣教養科目別実施状況	8
・消防職員研修実施状況	8
・消防職員・団員公務災害等発生状況	8
・消防本部車両運用状況	9
・消防団活動状況	10

【第2編】消防施設（P11～16）

・消防庁舎等設置状況	11
・消防車両等配備状況	12
・主な消防機器保有状況	14
・水防用資機材備蓄状況	15
・消防水利設置状況	16

【第3編】予防（P17～28）

・連区別防火対象物状況	17
・査察実施周期	18・19
・査察実施率の推移	19
・中高層建築物・地階用途別状況	20
・防火管理者選任状況	21
・防火管理講習実施状況	21
・危険物施設等連区別設置状況	22
・危険物施設に関する申請等の件数	22
・危険物施設等の10年間の推移	23
・瀬戸防火防災協会連合会	24
・街頭消火器設置整備事業	24
・瀬戸市危険物安全協会	25
・瀬戸市自衛消防連絡協議会	25
・自警団	25
・瀬戸市婦人消防隊連絡協議会	26
・瀬戸市少年消防クラブ連絡協議会	26
・瀬戸市幼年消防クラブ	27
・防災会	27
・安心・安全トピックス（わんわん消防隊、救急安心たまご）	28

【第4編】火災統計（P 29～38）

・平成30年中の火災発生状況と前年との比較	29
・原因別・用途別火災状況	30
・初期消火実施状況	30
・出火原因別（発火源・経過・着火物）火災発生件数	31
・署所別・連区別火災状況	32
・曜日別・月別火災状況	33
・天候別火災状況	33
・時間別火災状況	34
・10年間の火災状況	35
・10年間の出火件数と住宅火災件数及び損害額の推移	35
・10年間の住宅火災の状況	36
・10年間の住宅火災における出火原因別件数	36
・10年間の住宅火災における時間別死傷者数	37
・10年間の住宅火災における年齢別死傷者数	37
・10年間の主な火災	38

【第5編】救急・救助統計（P 39～48）

・事故種別救急出動件数及び搬送人員	39
・署所別救急出動件数	40
・連区別の老年人口率と救急搬送率	40
・曜日別・月別救急出動件数	41
・時間別救急出動件数	41
・傷病程度別搬送人員	42
・年齢区分別搬送人員	42
・急病にかかる疾病分類別搬送人員調	43
・事故種別医療機関別搬送人員調	43
・救急隊員の行った応急処置状況	44
・応急手当普及啓発実施状況	44
・救命率の推移	45
・バイスタンダーCPR実施状況	45
・AEDステーション認定事業所数	45
・10年間の現場到着平均所要時間の推移	45
・10年間の救急出動件数	46
・急病・交通・一般負傷の出動件数10年間の推移	46
・事故別救助出動状況	47
・連区別救助出動件数	47
・発生場所別救助人員	48
・10年間の救助出動件数	48

【第6編】通信・気象（P 49～52）

・消防指令センターの主な施設状況	49
・月別119番受信状況（受信時の種別）	49
・無線施設状況	50・51
・月別気象状況	52
・天候別日数調・月別気温状況・月別湿度状況	52

【第7編】資料（P 53～58）

・消防本部の沿革	53
・消防相互応援協定	58

市 勢 概 要

瀬戸市は、名古屋市の北東約20kmに位置し、周囲を標高100～300mの小高い山々に囲まれ、気候も温暖なまちで、「せともの（瀬戸物）」という言葉が、やきものの代名詞として広く知られています。

良質で豊富な陶土に恵まれたこの地で、先人たちは新しい技術や文化を柔軟に取り入れ、「せとものまち」を発展させてきました。

長年受け継がれてきたやきものづくりの卓越した技は、多種多様なやきものづくりに繋がり、陶器と磁器が共存する稀有な産地であるだけでなく、ノベルティ（置物・装飾品）、ファインセラミックスなどが生産され、今も新しいものづくりが続けられています。

年別	項目	変 遷	面 積 (km ²)	人 口 (人)	世 帯
昭和 4 年		市 制 施 行	28.01	31,276	6,916
昭和26年		水野村合併	50.67	54,779	11,670
昭和30年		幡山村合併	71.36	64,681	13,588
昭和34年		品野町合併	110.34	79,449	16,636
平成31年		4月1日現在	111.40	129,550	55,942

